

2022年10月20日

報道関係各位

株式会社東京個別指導学院

日本のスポーツ界を担う戦略的強化事業を支えるコーディネーターのメンターに、人財育成のプロが就任

日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンターの事業におけるメンタリングを通じて、国際競技力の向上に貢献

ベネッセグループの株式会社東京個別指導学院(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:齋藤勝己 以下、東京個別指導学院)は、独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター(以下、HPSC)「次世代ターゲットスポーツの育成支援」事業において、2022年8月に代表取締役社長の齋藤勝己が「メンター」として委嘱されましたことを発表いたします。なお、「ハイパフォーマンスディレクター／ワールドクラスコーチ育成プログラム」に続き、2回目のメンター受嘱となります。

概要

東京個別指導学院は、小学生から高校生を対象とする個別指導塾を直営にて268教室展開する個別指導のパイオニアです。ホスピタリティをコアにした人財育成メソッドを持ち、生徒だけでなく講師として働く大学生の人財育成にも関わっています。東京個別指導学院の在籍講師数は約1万2400人(2022年5月末)。そのうちの約9割が現役大学生(短大・大学院含む)です。

ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)は、国立スポーツ科学センター(JISS)と味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)の機能を一体的に捉えて支援を実施する、日本のトップアスリートの中核です。スポーツ医・科学、情報に関する支援や実践的研究、最先端のトレーニング環境の提供、統合的な戦略プランの推進、そしてアスリートの発掘・育成・強化に関する活動支援などを行っています。

引用元:(独)日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター ウェブサイト

<https://www.jpnsport.go.jp/hpsc>

HPSCが行う「次世代ターゲットスポーツの育成支援」事業では、事業マネジメントを担うコーディネーターが競技団体に配置されています。今回、そのコーディネーターに対する支援の一環として「メンタリング」が導入されました。メンターとコーディネーターは定期的な対話を通じて、目標達成や課題解決のほか、組織活性化など、コーディネーターとしてのスキルアップ等を目指します。この「メンタリング」を通して、コーディネーターがスポーツ界の枠を超えた新たな学びやネットワークを創出することが期待されます。

このたび、東京個別指導学院 代表取締役社長の齋藤勝己は、数多くの人財育成と組織マネジメントの経験が評価され、2022年8月から2023年2月まで、「次世代ターゲットスポーツの育成支援」事業におけるコーディネーターのメンターとして委嘱を受けました。齋藤は2019年9月から2021年3月まで「ハイパフォーマンスディレクター／ワールドクラスコーチ育成プログラム」のメンターも務めており、これが2回目のメンター受嘱となります。

■ 齋藤勝己よりコメント



2度目のメンター拝命となりますが、スポーツにおける人と組織のマネジメントは教育事業と相通じることを実感し、経営者としての私自身にとっても大きな学びになっています。これまでの私の経験と知見が、スポーツ界の発展ならびに夢や希望のある社会の実現の一助になれば幸いです。

【株式会社東京個別指導学院について】 <https://www.tkg-jp.com/>

1985年創業の個別指導塾のパイオニア。2022年10月20日現在、小中高生を対象とする個別指導塾を直営にて268教室展開。ホスピタリティと対話を大切にした指導で、多様化するニーズにきめ細かく対応。2007年に株式会社ベネッセコーポレーション(現株式会社ベネッセホールディングス)と資本業務提携契約を締結し、連結子会社に。個別指導塾のブランド名は「東京個別指導学院」と「関西個別指導学院」。その他、「ベネッセサイエンス教室」「ベネッセ文章表現教室」「オンライン個別指導1online」を運営。